

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme

PRESS by AJPS

【エクストリームプレス】

Vol. 8 2013
Spring



心像
image

FREE

ご自由に
お持ちください

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme

PRESS by AJPS

「日本スポーツプレス協会」
(Association Japonaise de la Presse Sportive)
1976年に発足。第一線で活躍する
フォトグラファーとジャーナリスト
約170人が所属している。

[エクストリームプレス]
2013. Spring
Vol. 8



[Cover Photo] 北村 大樹 Daiju Kitamura
一瞬の静寂を切り裂きながら、煌めく水面を矢のごとく射貫く。数ある採点競技の中でも、飛び込みはひときわシビアでストイックな競技だ。まさに体ひとつで、わずか2秒弱の勝負に挑む。その一瞬に凝縮された、アスリートの放つ輝きと躍動感を表現したいと考えた。

Canon EOS-1D Mark III、EF70-200mm F2.8L、1/15、F8.0、ISO50。ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード

<http://www.ajps.jp>

Publishing AJPS (Association Japonaise de la Presse Sportive)

Publisher Akiro Mizutani
Project Manager Yoshiro Kato
Editor in Chief Takamitsu Mifune
Editor Kenji Iimura · Hideyuki Imai · Tetsushi Ono · Aki Kusudo ·
Kenjiro Sugai · Shinichiro Tanaka · Tomoniro Watanabe
Editorial Coordinator Asuka Senaga
Design fututre

CONTENTS

巻頭エッセイ Vol.8

1/80000

岩崎 龍一 / 文 Ryuichi Iwasaki

Moments

心像 *image*

岸本 勉 / 写真 Tsutomu Kishimoto
築田 純 / 写真 Jun Tsukida
菅沼 浩 / 写真 Hiroshi Suganuma
木下 健二 / 写真 Kenji Kinoshita
北村 大樹 / 写真 Daiju Kitamura

Close Up

三宅 宏実 (ロンドン五輪ウェイトリフティング女子 48kg級銀メダリスト)

折山 淑美 / 文 Toshimi Oriyama
戸村 功臣 / 写真 Atsushi Tomura

Impression

チャンピオンたちが見せる一瞬の表情を逃さない。

ヤナガワゴー！ / 写真 Go! Yanagawa

岸本 勉 / 写真 Photograph by Tsutomu Kishimoto

ボルシア・ドルトムント(ブンデスリーガ)のホームスタジアム、シグナル・イドゥナ・パルク。このゴール裏は、いつ訪れてもサポーターでびっしり埋まっている。ピッチレベルから上の席まで切れ目がない。2010年から約2年間、ドルトムントにいた香川真司がゴールを生むたび、この大人数が飛び跳ねていたのだ。

Nikon D3s、PC-E Micro-Nikkor 85mm F2.8D、1/400 F2.8、ISO200、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード

1/80000 岩崎 龍一

美しくはあるが、寂しささえ覚える巨大建物。数時間前までは無機質だったその空間に、生命の息吹が注ぎ込まれていく。しばしの間を置き周囲を見渡せば、そこは人々の期待がはち切れんばかりに満ちた劇場だったことに気づかされる。

8万人を超える観衆を飲み込んだシャティオ。スタンドに詰めかけたその一人ひとりが、多くの夢を持ってこの場に足を運んだ。日常の悲哀を忘れるために集まった大人たち。そして、子どもたちは未来の自分を、ピッチに散らばる22人のユニフォームの影に重ね合わせる。

気高い。それでいて、同時に残酷さも持ち合わせたトップアスリートの世界。日々の消耗は、確実に彼らから幼いころは普遍だった

スポーツの楽しみを削ぎ落としていく。観る側から、観られる側に回ったと同時につきまとうプレッシャー。選手からプレーそのもので得られる心からの笑顔が薄れていく場面を、たびたび目にすることがある。

フットボールを職業として、スポーツを飯を食うための生活基盤として、トレーニングと試合の狭間で生きる一握りのトップアスリート。そんな彼らに思い出して欲しい。

「かつては君も、観客席にいるあの8万人のなかの一人だった」

ということを。

少年時代、夢を与えてくれた存在があったからこそ、現在の君がいるのだ。

父親に手を引かれて試合を観戦に来た、幼いころ君の目には、何が映ったのか。君はど

のような感情を抱いたのか。そして家に帰ったベッドのなかで、おそらく君はピッチを走る選手たちに、将来の自分の姿をダブらせたはずだ。

プロとなった現在、大観衆で埋まったその光景は、君にとって日常の一コマでしかないのかもしれない。でも忘れてほしくないのは、この劇場空間は観客がいるからこそ成り立ち、君は光り輝けるのだ。

8万人には8万通りの期待がある。スタンダードには、かつての君のように、君のプレーに触発され自分の将来像のイメージを膨らませる少年もいる。その子どもたちに夢を与えるためにも、再び幼かったころの心を取り戻そう。

スポーツはプレーできることそのものが、喜びだということを——。

心像
Moments

篠田 純／写真 Photograph by Jun Tsukida

あと1cmでも遠くへ、鍛え上げた肉体を駆使して跳躍するアスリートたち。幾多の困難や試練を乗り越えてきた彼らのパワーが、スタジアムに解き放たれる瞬間が最も美しいと思う。生き物のような表情を見せて舞い上がる砂塵は、まるで彼らのパワーが炸裂したかのようだ。

Nikon D3、AF-S NIKKOR 300mm F2.8G ED VR II、
1/1600、F2.8、ISO500、ホワイトバランス オート、
サンディスク エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュカード



菅沼 浩／写真 Photograph by Hiroshi Suganuma

太陽を画角に入れつつ、豪快にまき上がるスプレーとスキーヤーのシルエットを撮影しようと、逆光になる時間帯を狙った。まさに理想通りのスプレーを描きながら滑降してきたスキーヤーが、クリフを飛ぶ瞬間を切り取った。オーストリア・サンアントンで撮影。

Canon EOS-1D Mark IV、EF70-200mm F2.8L IS II USM、1/2500、F10、ISO100、ホワイトバランスオート、サンディスク エクストリーム プロコンパクトフラッシュ カード





木下 健二 写真

Photograph by Kenji Kinoshita

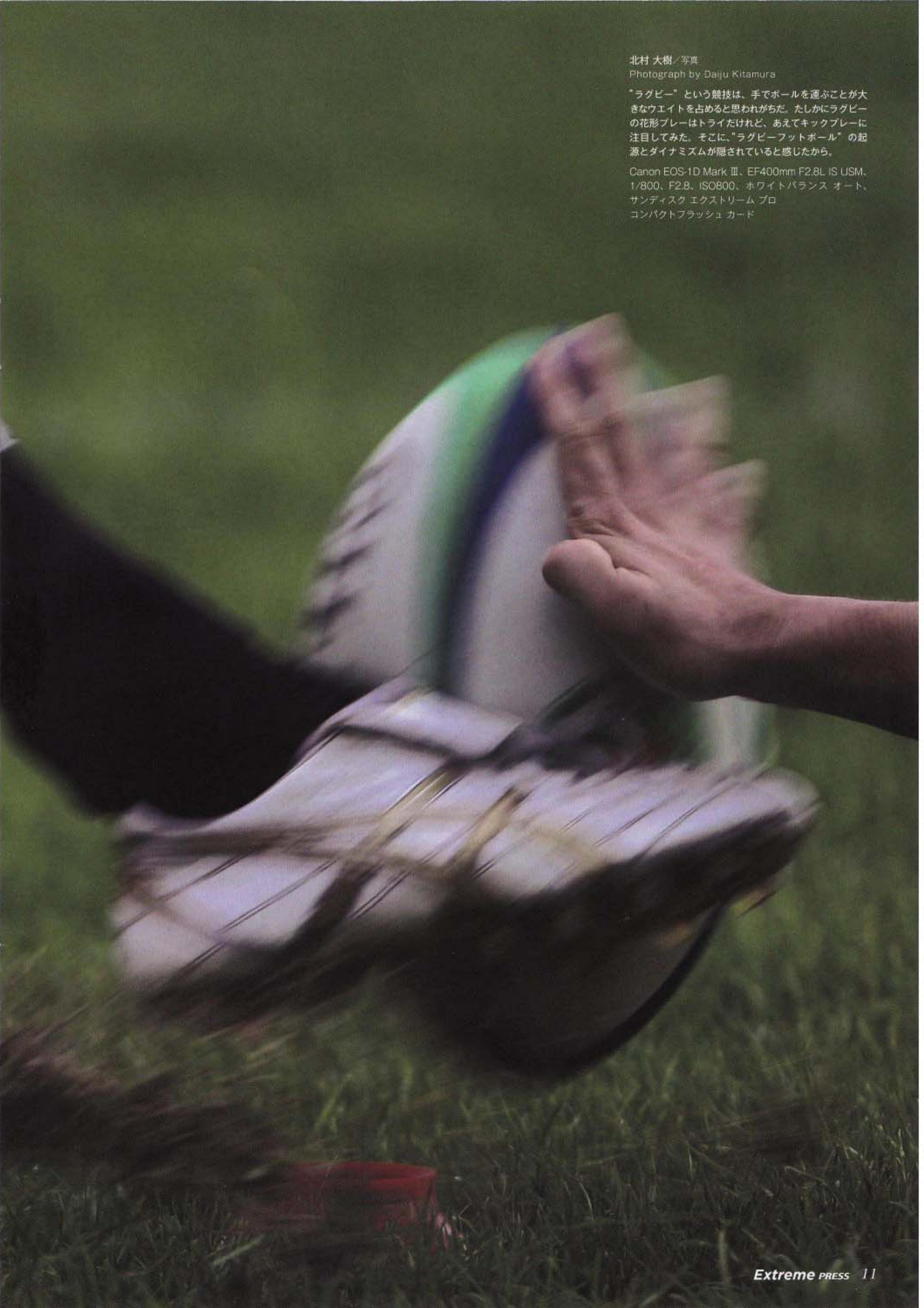
ハワイ州のモロカイ島からオアフ島まで42マイルを、6人乗りのアウトリガーカヌーで渡るレース“Na Wahine O Ke Kai”。日本にも、このレースに挑戦している女性たちがいる。荒れた大海原で水と戦うその姿を撮影していると、いつのまにか自然の力、海の姿にも魅了されている自分がいた。

Canon EOS-1D Mark IV、EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM、1/1250、F9.0、ISO400、ホワイトバランスオート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード

北村 大樹／写真
Photograph by Daiju Kitamura

“ラグビー”という競技は、手でボールを運ぶことが大きなウエイトを占めると思われがちだ。たしかにラグビーの花形プレーはトライだけれど、あえてキックプレーに注目してみた。そこに、“ラグビーフットボール”的起源とダイナミズムが隠されていると感じたから。

Canon EOS-1D Mark III, EF400mm F2.8L IS USM,
1/800, F2.8, ISO800、ホワイトバランス オート、
サンディスク エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ カード





三宅宏実

ロンドン五輪ウエイトリフティング女子48kg級銀メダリスト

三宅 宏実（みやけ ひろみ）1985年11月18日生まれ、埼玉県出身。メキシコ五輪で銅メダルを獲得した父・義行氏の指導を受け、中学3年生からウエイトリフティングを始める。埼玉栄高校時代に頭角を現し、2003年に全日本選手権で初優勝、48kg級でアテネ五輪9位、08年北京五輪6位。12年ロンドン五輪では日本女子重量挙げ史上初となる悲願の銀メダルを獲得した。いちごグループホールディングス所属。

折山 淑美 /文 Text by Toshimi Oriyama

戸村 功臣 /写真 Photograph by Atsushi Tomura

静止状態から一瞬の力の発揮でバーベルを頭上へと引き上げるウエイトリフティング。バーベルに気持ちよく動いてもらうには、正しい技術とスピード、乱れのない心など、すべてが揃っていなければいけないという。競技生活12年にして大輪の花を咲かせながらも、競技続行を決めた三宅宏実。シビアな競技を突き詰める中で彼女は、さらなる技術の追求と心身の成長という、甘い果実の存在を知ってしまったのだろう。

中3の時に父親に直訴してウエイトリフティングを始めてから12年。ロンドン五輪は彼女にとって、3度目にして初めて、すべてが順調にいった大会だという。「もちろん緊張はしたけど、12年間やってきてあんなに疲れた試合は初めてでした。普通、体の痛みはケガを別にすれば出ることはないけど、あの時は終わった瞬間から体があちこち痛み出したし、気持ちもすごく疲れていたので……。それだけ力を出し切ったんだな、と思いましたね」

そこまで集中した成果が、銀色に輝く、重いメダルだった。

自分の体重の2倍、3倍近い重量に挑戦するウエイトリフティング。スナッチとクリーン＆ジャークはともに3回の試技しか許されていず、綿密に計算して他の選手より重い重量を挙げようとするにはたった1回のミスも命取りになる。パワーさえあれば勝てるよう見られがちだが、体を動かすスピードや正確なタイミングで体やバーベルを操作する技術も極めて重要な要素だ。

「バーベルと仲よくなるというか、一心同体にならなければ重量挙げというの出来ないと私は思います。心が乱れていればそれがバーベルに移って変な動きになってしまう。だからパワーやスピードだけではなく、体の柔軟性や技術にメンタルも必要で、その5つが揃った時に初めていいパフォーマンスが出来るんです。その意味ではものすごく繊細だし、神経を使う競技だと思いますね」

もっと技術を磨きたい。



バーベルを一度止めるクリーン＆ジャークは修正する機会もあるが、一気に頭上まで引き上げるスナッチは修正がきかない。バランスが少しでも狂えば、斜めに挙がってしまい、頭上で支えきれなくなる。すべてのことに神経を細かく張り巡らせて正確な動作をした時には、バーベルが気持ちよく動き出して勝手に挙がってくれるという。それが出来るようになるためには、日々の練習で正しいフォームを体に叩き込まなければいけない。体だけではなく頭の中も「もう何も考えたくない」と思うほど疲れる。

「すべて練習ですね。完璧なものを求めて試合のつもりで一本一本集中してやらなければいけない。それでも最高のパフォーマンスが出来たというのは、12年間やってきて1回だけなんです。それが

53kg級でトータル207kgを挙げた11年の全日本選手権でした。あの時はどこでどういう風なコースを取ってというのがスローモーションのように見えて、バーベルの重さも感じなかったんです」

その感覚は自分の体の中にはっきり残っているという。だがそれを今追い求めるわけにはいかないのが、この競技の難しさだ。体の骨格や筋肉の状態は日々変わるもの。その時の体に一番適した新しいフォームを、日々見つけ続けていかなければいけない。体だけではなく頭の中も「もう何も考えたくない」と思うほど疲れる。

毎日の本当に小さなことの積み重ねがいつか自己記録更新となって現れる。その時の感動をまだまだ味わいたい、もっともっと自分の技術を磨き上げたいから

と、競技の続行を決めたのだ。

「年齢も年齢だから大幅な記録更新というのはないかもしれないけど、引退までには挙げたい重量というのもあるんです。体重があればある程、記録も伸ばせる競技なんですね。私の普段の体重は50kg前後と中途半端だから、それを55kgくらいに上げて記録に挑戦してみたいという気持ちもあるけど、そこまで上げるのは結構きついから……。4年後にどの階級でやるかわからないけど、今はむやみに体重を増やさないでたくさん食べて、今の体重で53kg級の選手と戦える力をつけていなと思っています」

心と体と技、そのすべてをバランスよく磨き上げた先に見えてくる世界。三宅宏実は今、新たな挑戦へと旅立とうとしている。



内山 高志（ワタナベボクシングジム）

プロカメラマンが選ぶ〈サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード〉×〈PENTAX 645D〉

チャンピオンたちが見せる一瞬の表情

ヤナガワゴー！ /写真 Photograph by Go! Yanagawa

編集部 /文 Text by Extreme PRESS

ボクシング史に刻む 大晦日の大一番

2012年12月31日、大晦日は日本ボクシング界にとってとりわけ輝かしい一日となった。

まずは、大阪府立体育会館で行われた世界タイトル戦。日本人初のWBA・WBC統一世界王者の称号を持つ井岡一翔が、

6ラウンドTKO勝ちを収めてWBAライトフライ級王者となり、2階級制覇の日本ボクシング最年少記録を更新。同じ所属ジムの宮崎亮も、初の世界王座挑戦でWBA世界ミニマム級のチャンピオンベルトを手にした。

東京では大田区総合体育馆でトリプル世界タイトルマッチが行われていた。3度目の世界挑戦となる河野公平が、見事な4

ラウンドKO勝ちでWBAスーパーフライ級王座を奪取。WBCスーパーフライ級王者の佐藤洋太は、日本人最強といわれていた挑戦者の赤穂亮を判定で下し2度目の防衛を果たす。

ここでいよいよ日本が誇る「KOダイナマイド」、WBAスーパーフェザー級王者内山高志の登場だ。日大芸術学部在学中にボクシングを撮り始め、その撮影歴30

を逃さない。

年を誇るヤナガワの胸は高鳴った。

「リング入場、そして国歌吹奏の時の内山選手の落ち着きぶりときたら、なんとかっこいいことか。リング下から見ていて鳥肌が立ちました」

緊迫感が漂うなか始まった大一番は、まさに一進一退だった。挑戦者はここまで無敗の暫定王者（同1位）のブライアン・バスケス（コスタリカ）。左右からバスケ

ラウンドの合間の1分間。単なる休憩時間ではない。一瞬たりとも気を抜いたほうが勝利の女神から見離されてしまうのだ。常に相手から目を離さない王者の表情を、ロープの内側からローイングで捉えた。

PENTAX 645D、FA645 35mm F3.5 AL[IF]、1/250、F3.5、ISO1000、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロコンパクトフラッシュ カード



サンディスク
エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ カード 128GB

るという。

「デジタルカメラで撮影するようになってから長いこと使っていますが、メディアのトラブルは一度もないんです。1GBのCFカードが一枚5万円と高価だった時代から、16GBのSDカードがほぼ10分の1の値段で買えてしまう現在まで、メディアは進化しているんだろうけど、信頼できるところは変わりませんね」

修行僧のようにストイックに取り組むボクサーたちの「人生の奥深さ」を追いかけ、ヤナガワはこれからも世界を駆け回っていく。

「ボクシングは一瞬一瞬が勝負。一か八かのギャンブルのような撮影が多いけれど、それもこれも、このカードに信頼性があるからできること。これからも頼りにしています。もちろんカードの入れ忘れだけは注意しなければいけないけどね」



ヤナガワゴー！

1963年10月19日、東京生まれ。86年、日本大学芸術学部写真学科卒業。日刊スポーツ新聞社に入社し、ソウル五輪、F1、大相撲などを撮影し、92年からフリーランス。サッカーW杯は、90年イタリア大会から2010年南アフリカまで6大会連続で取材。人物像を握り下げる撮影を得意とする。

SanDisk®

使っているだけで「さすが」と思われる メモリーカードは少ない。

カメラの性能を最大限に引き出す、
最大95MB/秒^{*1}の超高速データ転送。

究極のSDTMカード、サンディスク エクストリームTM プロTM シリーズ



[信頼性] インテリジェントなデータ管理を可能にする、業界最高水準のエラー訂正コード

[UHSスピードクラス1]^{*2} ^{*3}フルHD動画^{*}の撮影にも最適な、UHSスピードクラス1に準拠

[究極のスピード] 最大95MB/秒の超高速データ転送を実現

[耐久性]^{*4} 防水、温度、衝撃、X線などの過酷なテストをクリアし、極限の状況下でも正確な動作を実現

[長寿命] ウエアレベリング技術により、データの保全とカードの寿命を最大化

[テクノロジー] サンディスク独自のパワーコアTMコントローラにより、効率的かつ迅速なデータ処理が可能

[大容量] 最大64GBまでの大容量で、高速連写による膨大な画像データや、フルHD動画も余裕で保存

[絶対の自信] 絶対の自信に裏付けされた、無期限保証^{*5}付き



サンディスクイメージメイト[®]
オールインワンUSB3.0リーダー/ライター

超高速性能・大容量

Extreme Series
エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの82.4%^{*}から「安心のブランド」と評価されました。^{*}2010年2月当社調べ。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/loader>

サンディスクはフラッシュメモリーカード世界^{*}・国内^{**}シェアNo.1ブランドです。

サンディスク

検索

^{*}2010年Gartner調べ (Gartner Dataquest No. GO0211697 03/25/2011)。**GFK Japan調べ (国内の有力家電量販店販売実績集計/2011年)。^{*1} 最大読み取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。^{*2} UHSロゴは、HD動画を最適に録画するためのスピードを有するUHSスピードクラス1を意味します。^{*3} フルHD動画 (1920×1080×30fps)、HD動画、3D動画のサポートについてはご使用の機器、ファイルサイズ、解像度、圧縮率、ビットレート、撮影内容、その他の状況に依存します。^{*4} 詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/Corporate/proof/> ^{*5} 保証内容に基づきます。ドライブ及び無期限保証を認めていない地域においては30年保証。1.1メガバイト(MB)=100万バイト。1ギガバイト(GB)=10億バイト。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。2.機器によっては、SDXCカードやUHSに対応していない場合があります。詳細は機器のメーカーにお問い合わせください。3.SanDisk、SanDiskロゴ、SanDisk Extreme、サンディスク エクストリーム、SanDisk Extreme Pro、サンディスク エクストリームプロ、イメージメイト、及びパワーコアは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDXCのマーク及びロゴはSD-3C LLCの商標です。その他商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。

